

## ●浜の話題

- 4月10日、平塚市漁業協同組合は、今シーズン最後となる海底耕耘（海底の堆積物をかくはんさせて底質を改善すること）を行いました。この作業は生物調査も兼ねており、2-3mの水深差により桁網に入る貝の種類や量が異なることがわかりました。また、全6日間で合計約15kgのチョウセンハマグリが採れました。今後は、これまでの結果から調査海域におけるチョウセンハマグリ分布について分析を行う予定です。



海底耕耘で採取された貝類

- 4月17日、県水産技術センター相模湾試験場で、横浜市漁協柴支所の小底研究会のメンバーが参加してタチウオ用の底びき網の実験を行いました。同試験場には水流を起こす回流水槽があり、この中に10分の1スケールの精密な模型網を設置しました。水流により曳網を模した状況で、浮力やオモリ、網の長さ等を調整しながら、網口の広がり具合等の形状変化を観察しました。このような実験により、タチウオ網の性能向上を目指します。



実験の様子を見る横浜市漁協柴支所の漁業者

- 4月17日、横須賀市大楠漁協所属の田中指導漁業士（勘蔵丸）は、同日に解禁されたヒジキ漁について朝日新聞から取材を受けました。当日はヒジキの収穫から窯茹でまでの様子が取材され、19日発行の同紙神奈川版に記事が掲載されました。釜揚げヒジキはサラダ感覚で美味しく食べられる春の食材で、同漁協所属の漁業者直売所のほか「よこすかポートマーケット」で

も販売されています。

- 4月17日、平成30年度第1回漁業士会役員会が神奈川県民センターで開催されました。今年度は役員改選により小田原市漁協所属の江森指導漁業士（海真丸）が会長となり、新たな体制でのスタートとなりました。今回は、今年度の活動計画や、研修会・県外視察、および県水産技術センターへの試験研究課題の要望について検討が行われました。試験研究課題の要望については、西湘地区でも近年アイゴ等による藻場の食害が目立つようになっていることから、「県内沿岸部全域の磯焼け状況把握と今後の対策」について提出することになりました。
- 4月20日、鎌倉漁協漁業研究会では、アカモク増殖試験を開始しました。当日は、親縄にしばりつけたアカモクの母海藻を、現在アカモクがない海域に設置しました。設置場所でアカモクの種子が定着することにより、翌年以降のアカモクの繁茂が期待されます。



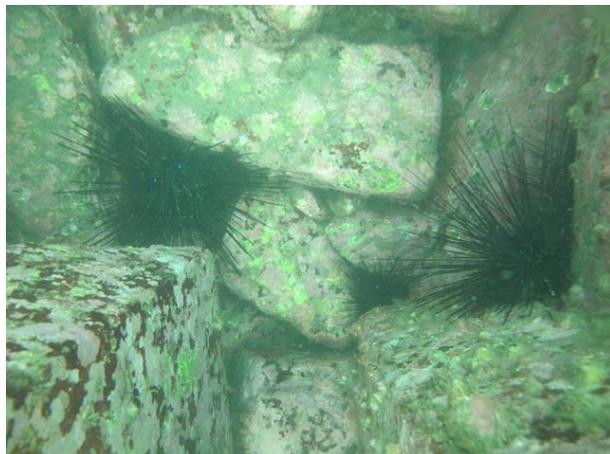
アカモク母海藻の親縄



種子を有するアカモクの雌生殖器

- 4月21日、長井町漁協アオリイカ増殖部会は、地先のアオリイカの産卵適地2か所に、カシの木を束ねた産卵礁を計7基設置しました。アオリイカは、同漁協の定置網、刺網、曳釣りをを行う漁業者の多くが漁獲する重要魚種です。本取組みにより多くのアオリイカが産卵して増殖することが期待されます。
- 4月23日、横浜市漁協柴支所アカモク研究会では、地先海域でアカモク増殖試験を実施しました。昨年この試験でアカモク母海藻を設置した海域では、当初2株しか生えていなかったアカモクが50株にまで増殖しており、同研究会のメンバーは今年も同様の効果を期待しています。また同研究会はアカモクの製品化と出荷試験にも取り組んでおり、今年は3.5トンの茹で冷凍品を出荷したとのことでした。
- 4月25日、みうら漁協金田湾地区および上宮田漁協所属の漁業者が3月下旬から4月上旬にかけて種付けしたワカメ種系を、担当普及指導員が顕微鏡で確認しました。どの糸も種付き状況が良く、今後の順調な生育が期待されます。
- 4月26日、県水産技術センター相模湾試験場は、小田原漁港蓄養水面においてガンガゼ類の分布調査を実施しました。3月の同調査では港内に高密度のガンガゼが生息していることが分

かりましたが、今回より詳しく分布状況を調べ、港奥側の岸壁下からテトラ周辺には高密度に生息する一方、港口周辺の水深 8m 以上の場所にはほとんど生息していないことを確認しました。ガンガゼは磯焼けの原因生物であるため、初夏から始まる繁殖期の前に除去を行い、周辺の磯根漁場への拡散を防ぐ必要があります。同試験場では今後、漁業者と共同で効果的な除去方法について試験を実施していく予定です。



海藻がほとんどないガンガゼが多くいる場所



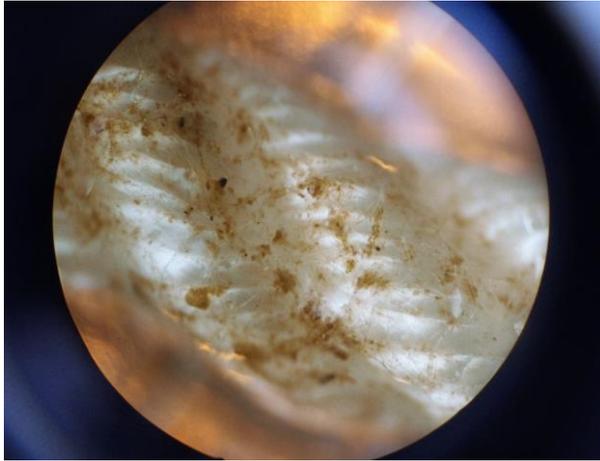
海藻が多く繁茂するガンガゼがいない場所

- 4月27日、長井町漁協アオリイカ増殖部会は、アオリイカ産卵礁についての勉強会を実施しました。当日は17名の漁業者が集まり、担当普及指導員から産卵礁に適した資材や設置に適した海域について説明を受けたのち、今後の取組み内容について検討しました。その結果、今年従来のカシ等の木を束ねた産卵礁に加え、新たに簡単に作成・設置ができる人工物を使った産卵礁の試験を実施することになりました。また、アオリイカのほか、スルメイカ、ヤリイカを含めた「長井のイカ」のブランド化についてもあわせて検討していくこととなりました。



研修会の様子

- 4月27日、長井町漁協所属漁業者が4月中旬に種付けしたワカメ種系を、担当普及指導員が顕微鏡で確認しました。長井地区では「横須賀系ワカメ」および「長井産天然ワカメと長井産養殖ワカメを掛け合わせたワカメ」の2種類の種系を生産しており、いずれも種付き状況は良好でした。



ワカメ種系の頭顕微鏡画像



ワカメ種苗（中央部）

○ 4月30日、横須賀市大楠漁協所属の平野指導漁業士（平敏丸）と田中指導漁業士（勘蔵丸）は、小田和湾の毛無島周辺海域でアカモク増殖試験を実施しました。同海域では5年前までアカモクの繁茂が見られたものの、近年ではアイゴ等の魚類の食害等によりアカモクが全く見られなくなっており、本試験による増殖の効果が期待されます。



横須賀市大楠漁協所属漁業者によるアカモク増殖試験の様子